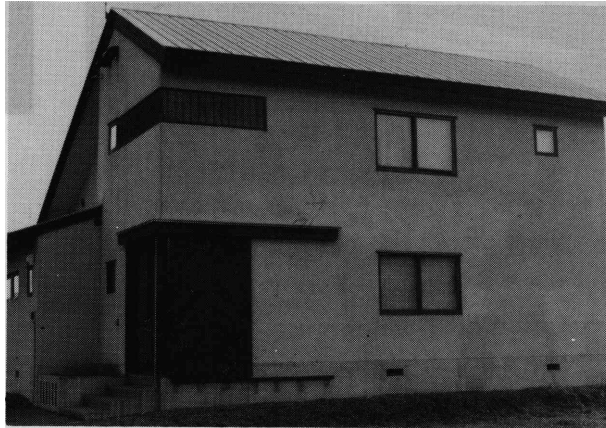


## 豊岡実験住宅

<概要> 旭川市豊岡に林産試験場の開発技術を活用して建てられた住宅で、当場で試作した引き違い窓と、北海道東海大学で設計したはめ殺し、外開きコンビネーション窓を使用している。

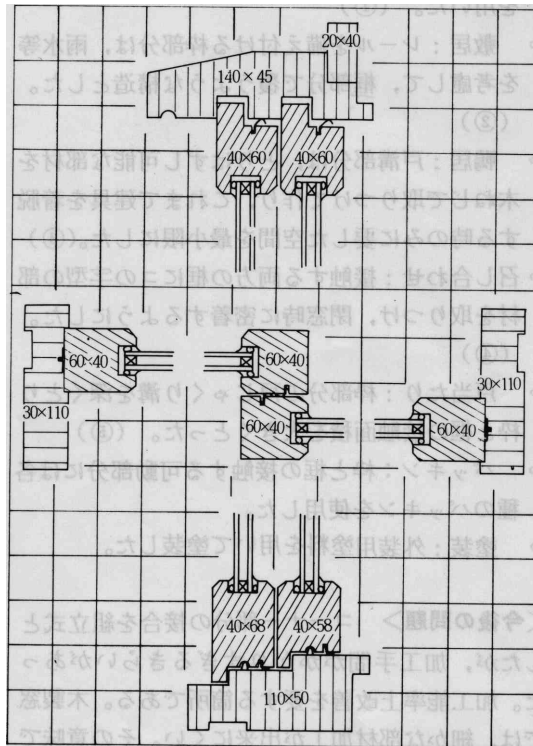
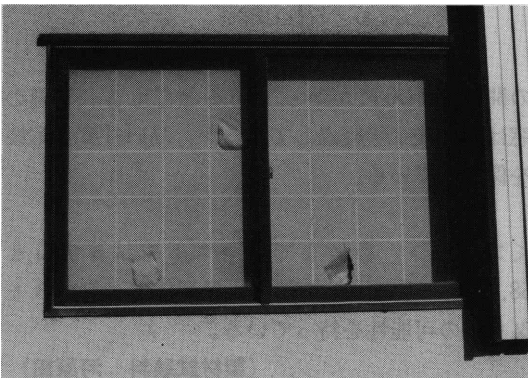


### 林産試型

<考え方> 内枠はホゾ組みとし、ボルトで固定しており、ガラスを取り代える際にはフレームを分解する方式を用い、押さえ縁を使用していない。また、引き違い窓は気密をとりにくいので、この窓では四周にウェ

ザーストリップスを用い、高气密化を目指している。

<特徴> 引き違い窓で気密を得にくいのは、内枠を取りはずすために内枠上面と外枠のすき間が必要であること、また、召し合わせ部分にすき間ができ易いこと、戸当たり部分も同様に気密をとりにくい部分である。そこで、この窓では、それらの気密をとりにくい部分にウェザーストリップスを使用して、気密性を高める試みを行っている。



豊岡実験住宅木製サッシ（林産試型）

また、ガラスはペアガラス（3 - 6 - 3）をシリコン系コーキング剤でとりつけ、ガラス部分の断熱性を得ている。

### 東海大学型

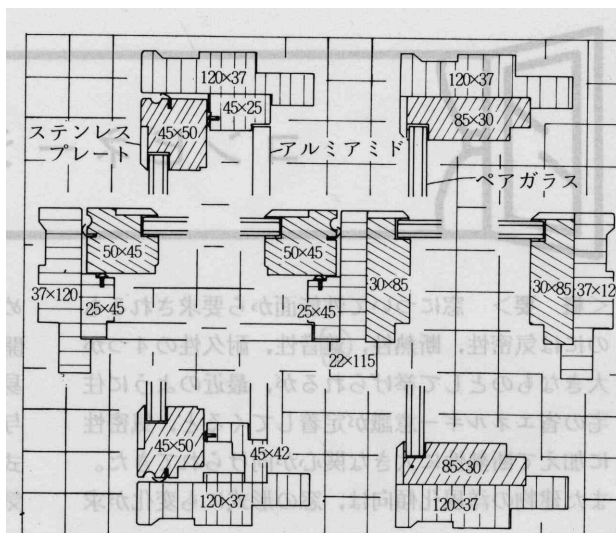
<考え方> ペアガラスを使用して断熱性を得ると同時に2種のウェザーストリップス(R)を用いて、気密性を得ている。

<特徴> 林産試型と同じように、3 - 6 - 3のペアガラスを使用して断熱性を得ている。またガラス押さえにステンレスプレートを使用している。これは、この窓が外側に断熱戸を用いた外断熱を行っているため、冬期間に棧に雪がついたまま断熱戸を閉めると雪が溶けることが予想される。

そこで、ガラス押さえの縁を鋭角にして雪がつかないようにするため、このステンレスプレートが用いられている。パッキングは排水溝に接してウェザーストリップスを、また、内側には押しつぶしタイプの中空ゴムパッキングを使用している。

フレームは、林産試型も東海大学型も、ホゾによって接合している。この方法と手稲実験住宅等で使用されている積層接着方法との優劣はつけにくく、これから窓製作を計画する際には、それらの長所、短所を十分検討して決定すれば良いであろう。

（加工科 石井）



豊岡実験住宅木製サッシ（東海大型）

